

図書館員のひみつの本棚 第125回

願い事が叶うとしたら、あなたは何を願いますか？

『砂の妖精』

E. ネズビット／作 石井 桃子／訳 福音館書店 2002年 810円

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★☆ 小高学年★★★ 中学生★☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

ロバート、アンシア、ジェイン、シ rilルの4人の兄弟姉妹たちがロンドンから移り住んだ田舎の家は、とてもすてきな家でした。建物もちろんすてきだったのですが、その家の近くの砂利堀場には願いを叶えてくれる妖精が住んでいたのです。

4人の子どもはサミアドというその妖精に、いろいろと思いつく願いをかなえてもらうのですが、どうもうまくいきません。

花のようにきれいになりたいと願った時には、家族や家の人に自分たちだと信じてもらえずはらぺこに。金貨の山を手に入れたときには、菓子パンと手袋とかばんを手入れたのですが、警察に捕まる羽目に。翼を手に入れたときには、屋根の上で寝てしまい、不審者と勘違いした大人が鉄砲をもって出てくる始末。

その他にもいろいろと願い事を考え、どの願い事もはじめはとてもよさそうに思えるのですが、最後はなぜか大変なことになってしまいます。4人のドタバタ劇を笑っているうちに、あっという間に読み終わってしまう1冊です！

<子どもに手渡す時のポイント>

この作品は1902年にイギリスで発表されたものですが、今でも変わらない子どもの本質的な部分を楽しく描いてあるので、舞台設定は100年以上前になりますが、現在の子どもたちも共感し、楽しめる物語です。長く読み継がれる物語だけがもつ物語の力を、ぜひたくさん子どもたちに味あわせてあげてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。